

めぐみイエス・キリスト教会

2023年7月16日(日) 第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第666号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」p. 402

【交読文】 No.32 詩篇第103篇 p. 905

【賛美Ⅱ】 新聖歌426「世には良き友も」 p. 686

【使徒信条・主の祈り・先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「愛の国となるために」

【聖書朗読】 使徒の働き28章23節～31節(新約p. 295)

【礼拝説教】 《その後のパウロ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き28章23節～31節)

28:23 そこで彼らは日を定めて、さらに大勢でパウロの宿にやって来た。パウロは、神の国のことを証しし、モーセの律法と預言者たちの書からイエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた。

28:24 ある人たちは彼が語ることを受け入れたが、ほかの人たちは信じようとしなかった。

28:25 互いの意見が一致しないまま彼らが帰ろうとしたので、パウロは一言、次のように言った。「まさしく聖霊が、預言者イザヤを通して、あなたがたの先祖に語られたとおりです。

28:26 『この民のところに行って告げよ。あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。

28:27 この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからであ

る。彼らがその目で見ること、耳で聞くこと、心で悟ること、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』

28:28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うことになります。」

28:29【本節欠如】

28:30 パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、

28:31 少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣傳伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

●ポイント1.「パウロが引用した旧約聖書箇所」とは？

※イザヤ書6章9節～10節「イザヤの幻から」 (旧約p.1176)

6:9 すると主は言われた。「行って、この民に告げよ。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。

6:10 この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を固く閉ざせ。彼らがその目で見ること、耳で聞くこと、心で悟ること、立ち返って癒やされることもないように。」

●ポイント2.「29節本節欠如」とは？

28:29 彼がこれらのことを話し終わると、ユダヤ人たちは互いに激しく論じ合いながら、帰って行った。

●ポイント3.「パウロの願い」と「決意」とは？

※ローマ人への手紙15章23節～24節「56年コリント執筆」(新約p.322)

15:23 しかし今は、もうこの地方に私が働くべき場所はありません。また、イスパニアに行く場合は、あなたがたのところに立ち寄ることを長年切望してきたので、

15:24 旅の途中であなたがたを訪問し、しばらくの間あなたがたとともにいて、まず心を満たされてから、あなたがたに送られてイスパニアに行きたいと願っています。

※第Iコリント9章24節～27節「パウロの決意から」 (新約p.339)

◎先週の礼拝メッセージ【ローマに着いて】

《マルタ島のメインの港ヴァレッタには、偶然にもアレクサンドリアの船が越冬していました。その船首にはディオスクロイの飾りが付いていたことを、ルカは特徴に挙げています。三ヵ月後、パウロたちを乗せた船は出航し、まずシラクサに寄港し、次ぎにレギオンを経て、ローマ市の港、プテオリに到着します。ここからローマ市までは、アッピア街道を上ることになります。何と、プテオリには、すでにクリスチャンの兄弟がおり、教会を形成していたのです。パウロ一行は、七日間も、その家に滞在することを許されます。そして、その後、プテオリからアッピア街道を上って、首都ローマに向かいます。このローマへの道程においても、主の恵みと祝福がありました。何とパウロのことを聞いた、ローマのクリスチャンたちが、パウロ一行を迎えに、アッピア街道を下って来たのです。まず、ローマから70キロの所にあるアピイ・フォルムの宿場町において、次に、ローマから40キロの所にありますトレス・タベルネにおいて、パウロは、彼らの出迎えを受けたのです。パウロは神様に感謝を捧げ、本当に勇気づけられたのでした。

紀元60年、ついに念願のローマ市にパウロは到着します。祈りと願いが聞き届けられたのです。ローマ市のクリスチャンたちは、しっかりと信仰を守っていました。これは、紀元56年頃に、コリントから書き送った「ローマ人への手紙」の力によるのです。彼らは、その手紙を熱心に読み、その教えに従っていたからです。

さて、首都ローマに到着してから、三日後のことです。パウロはローマ市内のユダヤ人のおもだった人たちを呼び集めました。これから、ローマ市において、彼らとも関わりを持つことになるからです。ここから約2年以上におよぶ裁判待機期間が始まります。また、パウロは、プリスキラとアクラとも再会します。あらゆる物事は、決して偶然ではなく、主イエス様の計らいの中に、必然として起こり得るのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、7月23日(日)午前10時からです。